

# 至誠館大学

科目名	道徳教育の理論と方法			コード			
英語表記							
担当教員名	後藤 淳			年度	平成28年度		
基準年次	2年次	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	教職		
<b>授業概要</b>							
<p>価値多元化社会と言われる今日、「教えるべき&lt;道徳&gt;とは何か?」という問についてさまざまな答えが想定される。本授業ではこの点を踏まえ、&lt;道徳&gt;を次の4つの角度から考察する。すなわち①「集団」「他者」「自分」と&lt;道徳&gt;の連関、②現代社会と&lt;道徳&gt;との連関、③&lt;道徳&gt;をめぐる教育史、④&lt;道徳&gt;教育の様々な実践プランの検討。以上を通して、今日「いかに&lt;道徳&gt;を教えるか」を、複眼的にとらえていく。</p>							
<b>到達目標</b>							
<p>1) 価値多元化社会をふまえ、今日の道徳の在りようを論述できる。</p> <p>2) 現在の道徳教育観に影響を与えた様々な道徳原理を理解できる。</p> <p>3) 社会に生きる「私」と道徳との関連について説明できる。</p> <p>4) 学校・家庭・地域の連携を道徳教育という観点から分析できる。</p> <p>5) 教育勅語の内容を叙述できる。</p>							
<b>授業計画</b>							
第1回	ガイダンス 道徳教育と道徳的教育, 行為基準としての「善悪」						
第2回	道徳の原理1 I・カント「自愛」と「道徳法則」						
第3回	道徳の原理2 J・ベンサム「最大多数の最大幸福」						
第4回	道徳教育の場1 家族・家庭						
第5回	道徳教育の場2 集団・社会・学校						
第6回	道徳的制裁 事例分析と議論						
第7回	道徳教育の背景1 キリスト教的人間愛						
第8回	道徳教育の背景2 仏教的「恩」と儒教的「忠」「義」						
第9回	日本の道徳教育 教育勅語と修身教育, 占領政策と教育改革						
第10回	道徳教育の展開1 中学校及び高等学校学習指導要領における道徳教育						
第11回	道徳教育の展開2 道徳教育と教材・副読本						
第12回	道徳教育の展開3 教材・副読本に準拠した道徳教育授業案の作成と検討(1)(自由と責任:「インターネットの落とし穴」道徳副教材 光村図書)						
第13回	道徳教育の展開4 教材・副読本に準拠した道徳教育授業案の作成と検討(2)(郷土愛:「ふるさとの音ー残したい音風景ー」道徳副教材 光村図書)						
第14回	道徳教育の展開5 独自教材に準拠した道徳教育授業案の作成と検討(1)(生命の尊厳:環境省環境局生物多様性センターHPと「ものけ姫」)						
第15回	道徳教育の展開6 独自教材に準拠した道徳教育授業案の作成と検討(2)(夢に向かうチャレンジ:「10代のぜんぶ」ポプラ社)						
<b>評価方法と基準</b>			<b>評価項目と割合(%)</b>				
定期試験とは別に、講義内で小テストを実施する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
出席は成績評価の対象とはしないものの、12回以上の出席を期末試験受験の条件とする。					40	60	
<b>授業外学習</b>			<b>テキスト、教材</b>				
レポート作成を求める。レポート提出は成績評価の対象とはしないものの、期末試験受験の条件とする。			教科書:『道徳教育への招待』押谷由夫/内藤俊史編著 ミネルヴァ書房 ¥2,400+税 資料等:講義内で関連資料を適宜配布する。				
<b>参考書</b>			<b>受講生へのメッセージ</b>				
講義内で紹介する。			道徳・倫理的価値に「絶対」は存在せず、ただ相対的判断が存するのみかもしれない。しかし、正しさやよさを希求する人間の中にある何かへの眼差しに気付いてほしい。				
<b>キーワード</b>							
道徳と倫理, よく生きる,							